

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society

NO.19

第46回大会を終えて

大会実行委員長 山内乾史 (神戸大学)

第46回大会は6月26日、27日の両日、神戸大学六甲台キャンパスにて開催されました。神戸大学での開催は今回初めてで、また実行委員の大半は会員になってから日が浅いために、いろいろと不安がありました。初日は雨にたたられ、出足が心配されましたが、多くの会員が詰めかけてくださり、胸をなで下ろしました。懇親会も予想以上の盛況ぶりでした。二日目は、雨も上がり、予想以上の数の会員に来ていただき、盛況でした。

できるだけ赤字を出さないように無駄な支出を控えながら、しかし、わざわざ本学までお越しいただいた一般会員、学生会員、臨時会員各位にできるだけサービスをしたい・・・こんなアンビバレントな気持ちを抱えて、準備を進めて参りました。赤字を出さないという目標はどうやらぎりぎり達成できたのですが、サービスについては参加していただいた会員各位にご判

断いただければ幸いです。「またいつか神戸大学で大会を」という声が挙がるぐらい評価していただいているならば、実行委員一同これほど嬉しいことはございません。(「すぐにもう一回やれ」といわれても困りますが・・・)

総計すると、自由研究発表は165件、ポスターセッション5件、ラウンドテーブル7企画となり、大会参加者数は439名、懇親会参加者数は204名でした。各会場とも熱心に発表、討論が行われたと伺っております。

課題研究としては、大会校企画の「サブサハラフリカにおける初等教育普及政策の政策的示唆と今後の国際協力」、学会研究部企画の「トランスナショナル高等教育の可能性と課題」の二つが開催されました。いずれの会場も巡回しましたが、熱心な討議が繰り広げられていたように思います。

第47回大会のご案内

第47回大会は、早稲田大学において、以下の要領で開催されることになりました。

多数の会員の皆様からご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

○日 程：2011年6月25日(土) - 6月26日(日)

○会 場：早稲田大学早稲田キャンパス

○連絡先：第47回大会準備委員会委員長 長島 啓記

nagashima@waseda.jp

また、シンポジウムは「比較教育学と国際教育開発」というコントロバーシャルなテーマをあえて選び、準備しました。人選には多いに苦勞しましたが、事前の懸念を吹き飛ばすような、建設的で本質的な議論がたたかわされ、企画者・司会者としてほっとしております。あらためて報告者、コメンテータ、フロアの方々のご協力に感謝申し上げます。

大会を終えて1ヶ月たった今日、至らなかったことがいろいろと思い出されます。実行委員会として至らなかったことについては今後に生かしていただくべく、引き継ぎ事項として残したく思います。

特にリニューアルしたばかりの、自慢の講堂で総会が開けなくなり、急遽会場を変更したことについては本学側の内部の連絡の悪さが原因であり、深くお詫び申し上げます。また天候のことゆえ、どうしようもないとはいえ、会員各位に神戸の夜景を満喫していただけなかったのは何とも残念です。

今大会の準備に当たりましては、広島大学の学会事務局をはじめとして、理事の先生方、司会を担当してくださった先生方には、多大なご協力・ご支援を頂戴しました。実行委員会を代表して、心よりお礼申し上げます。

<第46回大会の各会場風景>



<自由研究報告の様子>



<総会の様子>



<大会校企画の様子>



<シンポジウムの様子>

■平塚賞

第20回平塚賞の選考を終えて

平塚賞運営委員会委員長
望田 研吾

第20回平塚賞候補作品について2010年1月15日（必着）締め切りで募集した結果、自薦1点、他薦1点（いずれも単著）の応募がありました。2010年2月13日（土）、広島大学教育学研究科において平塚賞運営委員会を開催し、総合点及び各委員による評価に基づき応募作品を審査した結果、植村広美会員（日本学術振興会・特別研究員）の著書『中国における「農民工子女」の教育機会に関する制度と実態』（2009年2月28日風間書房刊）に対して第20回平塚賞を授賞することを決定しました。授賞理由は次の通り

です。

「本研究は、中国における市場経済体制への移行の過程で深刻化している農民工子女の教育機会の問題に焦点を当て、教育機会保障に関わる制度の変容、農民工による自助努力、中央・地方政府による施策等に加えて、農民工子女が就学する学校における10ヶ月にわたるフィールドワークにより、その生活実態や意識についても分析することによって、農民工子女の教育機会の保障制度と就学実態を多面的に解明しており、高く評価しうるものである。」

第20回平塚賞を受賞して

日本学術振興会・特別研究員
植村 広美

この度は、拙著『中国における「農民工子女」の教育機会に関する制度と実態』に対して大変名誉ある賞を頂き本当にありがとうございました。まさかこのようなもったいない程の賞を頂けるとは思っていなかったので驚きましたが、とても有難く、光栄に存じております。

歴代の受賞者の方々のことを考えると、皆さん大変素晴らしい成果を出されており、またそれぞれにご活躍されています。翻って私の研究成果について考えると、研究を完成させるために農民工の子どもが通うノンフォーマルスクールの教壇にたって、自分なりに彼らの実態に迫り、真の姿を捉えるように努力したつもりではあります。しかし、今見直してみるとまだまだ十分ではないと思うところも少なくありません。その意味でも、この度いただいた賞はさらにもっと深く研究するよという叱咤激励の意味のこもった賞だろうと思います。今後、ますます頑張っていきたいと思っています。

また、今後も中国教育研究を進めていこうと考えていますが、この度私が取り組んだ農民工たちの自主的学校運営活動という取り組みは、制度の隙間を埋める対処療法でしかありません。しかし、破天荒な民衆パワーに期待をして、今後も中国のオリジナルな近代化の過程を教育を通して描き、考察していこうと考えています。

最後に、大学院在学中の指導教員であった大塚会長から賞を手渡して頂けたというご縁もこの度の受賞に花を添えることでしたし、諸先生方、諸先輩方からご指導を頂いた御陰で、出版することができたことに対して改めて感謝いたします。



■平塚賞運営委員会からのお知らせ

来年度の第21回平塚賞候補作品を例年通り下記の要領で募集します。応募は自薦、他薦を問いません。多くの会員からの応募を期待しています。

1. 対象作品：2010年1月～12月に公刊された比較教育学に関する著書・論文（分担執筆を含む。ただし連名のものを除く）
2. 応募要領：本学会ホームページ掲載の「平塚賞候補著書・論文推薦書」に必要事項を記入し、当該著書・論文1部とともに提出すること。
3. 締め切り：2011年1月15日（必着）
4. 送付先：

〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1
九州産業大学国際文化学部内
日本比較教育学会平塚賞運営委員会
委員長 望田研吾 宛

※送付先が変更になっています。ご注意ください。

5. 問い合わせ先：

TEL & FAX 092-673-5828

Email : kmochida@ip.kyusan-u.ac.jp

なお、平塚賞に関する詳細については、学会ホームページまたは紀要巻末掲載の「日本比較教育学会平塚賞規定」をご参照ください。

平塚賞運営委員長 望田 研吾

■紀要編集委員会からのお知らせ

紀要編集委員会は任期のうち半分の1年半を経過しましたので、慣例により『比較教育学研究』の編集主幹を宮腰英一委員長から副委員長に移し、私と南部広孝編集幹事で第41号より第43号まで編集を担当させていただきます。第41号への自由投稿論文の応募は22編でしたが、19編を審査し、4編を採択いたしました。

特集は「義務教育の弾力化と質保証」というテーマを企画させていただきました。義務教育改革における弾力化と質保証要求の相関関係について、特徴的な実践が見られる6カ国、すなわち、フランス、ドイツ、カナダ、中国、ベト

ナム、ニュージーランドについて検証していただきました。また紀要刊行規定を改正し、第10項を追加し、今後紀要に掲載された論文等の著作権は本学会に帰属することになりましたのでご注意ください。

現在、紀要第42号の自由投稿論文の審査と、特集としては第46回比較教育学会大会でのシンポジウムの報告をまとめる作業をしています。比較教育学をめぐる、さまざまな立場の論者からの位置づけについて執筆依頼中です。どうぞご期待ください。

(紀要編集委員会副委員長 杉本均)

■国際交流委員会からのお願いとお知らせ

学会ホームページの「国際交流委員会」のページを充実するため、海外の研究者の研究発表など、比較教育学研究の国際交流に関連する研究集会・会合等の情報について、広く会員の皆様からの情報提供をお願いすることになりました。情報をお寄せいただく際には、下記の連絡先まで、件名を【比較国際交流委員会情報提供】とし、できればHPにそのまま掲載できるファイルを添付でお送りください。なお、特定の政治団体、宗教団体、営利活動など、学会の情報提供にふさわしくないものについては、掲載を遠慮させていただくことがあります。

6月にご案内しました、2010年度「台湾研究－短期フェローシップ」応募に際する学会からの推薦については、残念ながら希望者がありませんでした。次年度については未定ですが、ご関心のある会員は、2011年5月中に下記までご一報ください。

* 国際交流委員会連絡先メールアドレス：

shibuya@u-gakugei.ac.jp

(国際交流委員会委員長 渋谷英章)

WCCES第14回大会参加報告

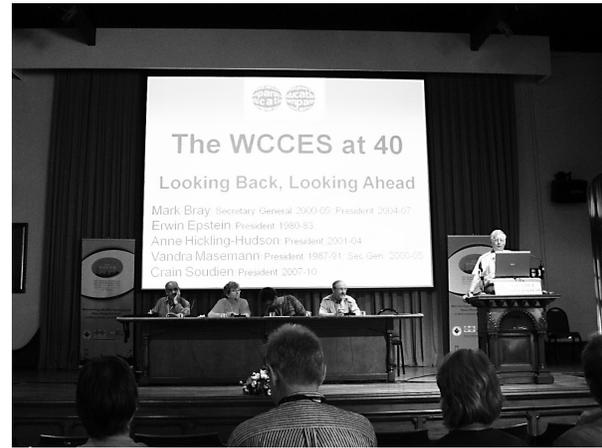
会長 大塚 豊

去る6月14日～18日、トルコのイスタンブール市にあるボガジチ（Boğaziçi）大学を会場にWCCESの第14回大会が開催され、私は理事会・総会への出席と大会での個人発表を兼ねて出かけました。ボガジチ（あるいはボアジチ）とは、われわれが英語名ボスポラスで親しんで来たヨーロッパとアジアを結ぶ大橋の架かった海峡名のトルコ語表記です。



今大会は、2006年創設と、誕生間もないトルコ比較教育学会の尽力で開催されました。眼下に広がるボスポラス海峡を望む高台に位置する同大学は、2年前から「WCCES大会」という授業を特設し、国際会議開催のロジスティクスやノウハウを学んできたと言います。ちなみに、トルコの他のいくつかの名門大学と同様、同大学はすべての授業を英語で行う方針がとられ、お揃いの黄色いTシャツを着て甲斐甲斐しく大会運営を支えていた学生たちの英語力は、コミュニケーションには事欠かないものでした。

大会の統一テーマは「Bordering, Rebordering and New Possibilities in Education and Society」であり、世界各国から1500人余りの参加者を集めた盛大な大会となりました。東西文化の交わる地であり、古く日露戦争当時から親日的なことで有名なトルコのことですから、会場で顔を会わせた人達だけを思い出しても、わが国からも優に40名を超える実際の参加がありました。大学院生でも臆することなく、堂々と発表をしている姿が印象的でした。



大会では基調講演、シンポジウム、多くのテーマ別セッション、個人発表など、盛り沢山の活動が展開されました。その一つが、WCCES創設から数えて、今年が40周年にあたることから設けられ、WCCESの来し方、行く末を考える特別セッション「The WCCES at 40: Looking Back and Looking Ahead」であり、エプスタイン、メイズマン、ヒックリング、ブレイ、ソウディーンという歴代会長各氏の話は感慨深いものでした。



大会前日および最終日に開かれたWCCES理事会には、加盟諸学会から27学会の代表ならびに特別選出委員数名が出席し、ペルシャ湾岸諸国の研究者からなる「湾岸比較教育学会」が第38番目の加盟学会として承認されたのをはじめ、多くの議題が審議されました。任期満了に伴う会長選挙では、立候補者3名のうちから現在シンガポール国立教育学院に在職のリー・ウィン・オン（李榮安）教授が選出されました。さらに次期2013年の第15回大会の開催地にはブエノスアイレスが決まり、3年後の再会を約して散会となりました。

■事務局からのお知らせ

●紀要『比較教育学研究』バックナンバーの電子アーカイブ化事業について

昨年、常任理事会の承認の下、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の実施するJournal@rchiveへ応募を行ったところ、『比較教育学研究』が掲載対象誌として選定されました。Journal@rchiveとは、学協会の発行する学術誌の論文等の全文を、過去の刊行分に遡って電子アーカイブ化し、オンラインで公開する事業です。これにより、本会紀要へ掲載された論文の内容がこれまで以上に広く普及し、紀要の学術的価値が高まることが期待されます。

事務局では理事会および東信堂と協議をしながら、アーカイブ化に向けた準備作業を進めてきましたが、この度、第一段階として、8月6日付で、創刊号（1975年刊行）から第17号（1991年）までの紀要に掲載された論文、書評、大会報告等の全文が掲載されました。今後、2、3年を掛けて最新号までの全文が順次公開される予定です。JSTの掲載ページについては以下からみることができます（学会ホームページにリンクを貼っています）。
http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jces1975

Journal@rchive上で公開する論文等は、その著作権が本会に帰属していることが条件となるため、

今年3月から4月に掛けて、17号までの論文等の著者に対して著作権譲渡依頼文書を発送し、また学会ホームページに著作権譲渡依頼文書を掲載しました。会員の皆様のご協力のおかげで現在までのところ、すべての論文等の掲載が可能となっています。18号以降の論文等著者に対しても同様の依頼を順次行っていく予定です。

また、これから新しく発行される号についてもオンラインでの公開をスムーズに行うため、編集委員会報告にもある通り、紀要刊行規定を改訂し、著作権に関する項目が新たに追加されました。41号より適用となりますので、ご承知置き下さい。紀要に掲載された論文等の著作権は今後、本学会に帰属することとなります。ただし、著者ご自身が自己の著作物を利用する場合（論文を著書に収録する場合など）であっても、学会の許諾は必要ありません。なお、Journal@rchive上では第37号までの公開を契約しており、それ以降の号の公開方法については改めて検討したいと思います。

公開された紀要の内容を会員各位のご研究に広く活用いただければ幸いです。今後とも本事業に対して会員各位のご協力をお願い致します。

●会員名簿の発行について

6月の大会に合わせ、会員名簿を発行しました。3月末に各会員宛に送付した会員名簿記載事項確認票を返送いただき、これに事務局で把握した情

報を加え、名簿情報の更新を行いました。記載内容に変更がある場合は事務局までお早目にご連絡いただくようお願い致します。

●年会費納入のお願い

本ニュースレターに、各会員の年会費納入状況を同封しています。必ずご確認ください、未納分がある方は同封の郵便振替用紙にて早目の納入にご協力をお願い致します。会費は通常会員10,000円、学生会員6,000円です。紀要は年2回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕 00820-6-16161

日本比較教育学会事務局

〔銀行口座〕 広島銀行西条南支店

普通 3126345

日本比較教育学会 一般

※銀行振り込みにより納入される方は、入金の際に必ず事務局までご一報下さいますよう、お願い申し上げます。

●新入会員リスト(2010年2月～9月、入会申込み順)

- | | |
|--|---|
| 宝来 敬章 (名古屋大学大学院生) | 蔡 エイ (神戸大学大学院生) |
| 馬渡ふじ香 (名古屋大学大学院生) | Truong Ha Thu (神戸大学大学院生) |
| 松井 佳代 (名古屋大学大学院生) | Sukhanindr Thidarat (George Washington University大学院生) |
| Song Sopheak (広島大学大学院生) | 石川真由美 (大阪大学) |
| Nguon Sokcheng (広島大学大学院生) | Ali Atawulla (名古屋大学大学院生) |
| Ramadan Farida Ibrahim (Japan Advanced Institute of Science and Technology研究生) | Sottile Marco (名古屋大学大学院生) |
| 大場 麻代 (広島大学) | 洪 伊瑩 (早稲田大学大学院生) |
| 田中真理子 (大阪大学大学院生) | 寺嶋 敏 (神戸大学大学院生) |
| 緩利 誠 (浜松学院大学) | 古川 恵 (神戸大学大学院生) |
| Kim Hye-Na (Pusan National University大学院生) | 呉 晗 (奈良女子大学) |
| Lee Dae-Yong (Pusan National University大学院生) | Kang Kyuwon (早稲田大学大学院生) |
| Wang Shuang (Pusan National University大学院生) | 岩品 雅子 (国際協力機構/ラオス教育省) |
| 金 恵理 (Pusan National University) | Valle Torres Mayra Gisera (神戸大学大学院生) |
| 関 丙燁 (Pusan National University大学院生) | 邵 婧怡 (神戸大学大学院生) |
| Lee Sun Young (Pusan National University大学院生) | Swift Digby Geoffrey (広島大学) |
| Lee ssang-Cheol (Pusan National University大学院生) | 大橋 美晴 (大阪大学大学院生) |
| Ndlalane Thembi (岡山大学) | Md.Shamsuzzoha (神戸大学大学院生) |
| 高橋 春菜 (東北大学大学院生) | 小林美由岐 (東京学芸大学大学院生) |
| 小野寺純子 (東京工業大学) | 沈 晶晶 (名古屋大学大学院生) |
| 田中 潤一 (札幌大谷大学) | Minho Shon (Inha University) |
| Nabasa Yvonne (神戸大学大学院生) | Park Byung Young (Korean Educational Development Institute) |
| 工藤 瞳 (京都大学大学院生) | 趙 徳珠 (Konkuk University) |
| 中田 志郎 (㈱パデコ) | 山田知佳子 (神戸大学大学院生) |
| 葛西 貴子 (東京学芸大学大学院生) | Lijckle Griek (NHL University of Applied Sciences) |
| 新垣 七海 (㈱アール・イー・アイ) | Al-Yousef Mazen (神戸大学大学院生) |
| 原田 耕平 (川村学園女子大学) | ADIYASUREN AMARJARGAL (東京大学大学院生) |
| 芦田 明美 (神戸大学大学院生) | ラムザン優子 (立命館大学) |
| 渡部 由紀 (京都大学) | 佐藤 千津 (大東文化大学) |
| Williams James. H (George Washington University) | 田中真奈美 (東京未来大学) |
| Sam Chanphirun (広島大学大学院生) | 金 塚基 (東京未来大学) |
| Atuhaire Sylvia (神戸大学大学院生) | 天野 隆雄 (東京未来大学) |
| 李 嬋娟 (大阪大学大学院生) | 高橋 梢 (東京外国語大学大学院生) |
| 中山 尚子 (神戸大学) | 芦澤 唯志 (翼学院 / 日本大学大学院生) |
| 樋口真須人 (大阪府立守口支援学校) | 橋本 博子 (Monash University) |
| 李 爽 (神戸大学大学院生) | 野村 哲也 (神戸大学大学院生) |
| 山本 雅 (神戸大学大学院生) | 李 彦及 (広島大学大学院生) |
| 佐藤 希 (神戸大学大学院生) | 吉田 香奈 (山口大学) |
| 松尾 寛子 (神戸大学大学院生) | 長谷川紀子 (名古屋大学研究生) |
| 駿田 尚志 (神戸大学大学院生) | 石原 伸一 (広島大学) |
| 福元 麻美 (神戸大学大学院生) | 樋口 修資 (明星大学) |
| S.M Zahidul Hassan (神戸大学大学院生) | |
| 末永 明美 (神戸大学大学院生) | |

(2010年9月12日現在の会員数1,069名)

●学会紀要および『学会40年の歩み』(2004年刊)のバックナンバーを会員価格にて販売しています!

会員の皆様に紀要のバックナンバーを会員価格(定価の7割)にて販売しています。第17号までは上記の通り、Journal@rchive上で公開していますが、18号以降の全号、および『学会40年の歩み』の在庫があります。価格については学会HPをご参照下さい。ご希望の方は号数、冊数を明記の上、e-mailまたはFAXにて事務局までご連絡下さい。

●学会への寄贈図書紹介

以下の図書を、著者・出版社より本学会に寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。(紀要類の寄贈については数が多いため、省略しています。ご了承下さい。)

- ・天野正治『シュプランガーの陶冶理想論』玉川大学出版部、2010年。
- ・K・イーガン著、高屋景一・佐柳光代訳『想像力を触発する教育—認知的道具を活かした授業づくり』北大路書房、2010年。
- ・伊藤実歩子『戦間期オーストラリアの学校改革—労作教育の理論と実践』東信堂、2010年。
- ・井上正志『教育制度の構造と機能』東信堂、2010年。
- ・宇佐美寛『作文の教育—〈教養教育〉批判—』東信堂、2010年。
- ・潮木守一『転換期を読み解く—潮木守一時評・書評集』東信堂、2009年。
- ・馬越徹『韓国大学改革のダイナミズム—ワールドクラス(WCU)への挑戦』東信堂、2010年。
- ・オードリー・オスラー／ヒュー・スターキー著、清田夏代・関芽訳『シティズンシップと教育変容する世界と市民性』勁草書房、2009年。
- ・加藤詔士・吉川卓治編『西洋世界と日本の近代化—教育文化交流史研究—』大学教育出版、2010年。
- ・唐木清志『アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング』東信堂、2010年。
- ・小林甫『教育社会史—日本とイタリアと』東信堂、2010年(『大転換期と教育社会構造—地域社会変革の学習社会論的考察』全4巻中、第1巻)。
- ・杉原由美『日本語学習のエスノメソドロジー—言語的共生化の過程分析』勁草書房、2010年。
- ・田中智志編『学びを支える活動へ—存在論の深みから』東信堂、2010年。
- ・大学教育学会30周年記念誌編集委員会編『大学教育 研究と改革の30年—大学教育学会の視点から』東信堂、2010年。
- ・塚原修一編『リーディングス・日本の教育と社会<第12巻・高等教育>』日本図書センター、2009年。
- ・日本国際理解教育学会編『グローバル時代の国際理解教育—実践と理論をつなぐ—』明石書店、2010年。
- ・日本社会科教育学会国際交流委員会編『新しい社会科像を求めて—東アジアにおけるシティズンシップ教育』明治図書出版、2008年。
- ・羽田貴史・米澤彰純・杉本和弘編『高等教育質保証の国際比較』東信堂、2009年。
- ・藤田英典・大桃敏行編『リーディングス・日本の教育と社会<第11巻・学校改革>』日本図書センター、2010年。
- ・松尾知明『アメリカの現代教育改革—スタンダードとアカウンタビリティの光と影—』東信堂、2010年。
- ・馬淵仁『クリティーク—多文化、異文化—文化の捉え方を超克する』東信堂、2010年。
- ・文部科学省生涯学習政策局調査企画課編『諸外国の教育改革の動向—6カ国における21世紀の新たな潮流を読む』ぎょうせい、2010年。
- ・山内乾史・原清治編『論集—日本の学力問題—上巻—学力論の変遷』日本図書センター、2010年。
- ・吉田文・橋本鉦市『航行をはじめた専門職大学院』東信堂、2010年。
- ・渡邊満／カール・ノイマン編『日本とドイツの教師教育改革—未来のための教師をどう育てるか』東信堂、2010年。
- ・Miki Inui *Minority Education and Development in Contemporary Laos* Union Press、2009年。

日本比較教育学会事務局

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1
広島大学大学院教育学研究科

Tel & Fax (082) 424-6231

E-mail jcesjimu@hiroshima-u.ac.jp

URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jces/>